

農業高校生による「みどりの食料システム戦略」の実践

農業高校生に本戦略を知ってもらうとともに、農作物の栽培から販売までを実践し、実践を通じて気づいた若者ならではの意見を出してもらい、今後の施策に活かす。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

農業高校におけるみどり戦略の実践を当拠点職員が発案し、手探りで調整を開始。令和5年度からの実施に向け、令和4年11月から教育委員会と協議を重ね、愛媛県高等学校農場長等研究協議会にて県内13校の校長・農場長への働きかけを実施。

○ 取組の内容

令和5年4月に西条農業高等学校、伊予農業高等学校、大洲農業高等学校の3校での実践が決定し、次の取組を実施。

- ・ 県拠点による「みどり戦略」の講義と意見交換（6月～）
- ・ 実際に、生徒が有機農業又は減農薬、減化学肥料栽培で作物を栽培、収穫、販売を体験（6月～）
- ・ 生徒は可能性や課題を整理し、農政局幹部、関係者と意見交換（令和6年1月）

○ 効果・成果、今後の方向性

将来、農業をはじめ指導者や研究者として主役となる高校生への周知を行ったことで、施策の浸透を図ることができた。

生徒からは、「地域資源の活用で地元貢献したい」、「自分たちの研究が地域の役に立つことが一番うれしい」などの感想が得られ、生徒が栽培等を通じて感じた率直な感想や若者ならではの意見は、今後の施策に活かす事ができる。

●みどり戦略の講義及び実践風景（令和5年6月～）



講義の感想発表（西条） アイガモ農法（伊予） みどり戦略講義（大洲）

●農政局幹部へのプレゼン、意見交換（令和6年1月）



プロジェクト発表会場

高校生らによる発表

感謝状授与

体制図

